



よこと館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 埋め草 68

～護る 誰から、何から？～

いま世界中が戦っている新型ウイルス、ようやくワクチンの接種が始まろうとしています。この実施と効果に重大な関心をもっています。ともかく一日も早く新型コロナがインフルエンザ並みの感染症になってくれることを祈ります。

さて、「護る」です。私たちは利用者とそのご家族を護ります。そして健全な市民生活の遂行を護ります。同時に法人としてはその仕事に従事する皆さん方、職員を護ります。感染症からばかりではありません。皆さんの人権を無視するようなパワハラメント、セクシャルハラメントからも護ります。誰から？それは同僚上司という事もあるでしょうが、利用者から、ご家族からの場合もあります。法人は規程を定め、覚悟を以って皆さんの人権を護ります。

ここで私たちが誠実に提供するケアが、ご家族に信頼されず、法人として対応した事例を皆さんにお伝えします。

2017 年春、至誠ホームミナで起きた、介護度 4 で 2009 年から利用の 84 歳のお年寄りの誤嚥事故です。当日はユニットで誕生祝いの昼食会を開き、ご本人の希望でお寿司の出前を取っていました。食事は自力摂取の方でした。職員は寿司ネタのまぐろを 5 ミリから 1 センチ程度に刻みスプーンで潰し、おかゆの上に乗せて提供していました。突然、ご自分で摂食中意識を失い、食べ物を詰まらせた様子で職員はすぐに対応をして、医療機関に搬送をしました。残念ながらその 3 日後、ご本人は脳出血で他界されました。介護中の事故であるしご本人のご冥福を祈ると同時にご遺族にも経過の説明、誠意を尽くした対応をさせていただきました。しかしご遺族は、亡くなった方は家族が経営する会社の役員で、施設に介護ミスの責任があると主張し、事故に対し 3,660 万円の賠償請求の裁判となりました。

至誠ホームは、介護は適切だったと判断し和解は選択せず裁判となりました。介護を担当した職員も証人席で証言を求められました。判決は 2020 年 3 月地裁でホーム側に落ち度はなかったと勝訴、しかし家族は控訴、高裁判決は 2020 年 12 月、家族の訴えは棄却されました。誠意と注意を尽くしても事故は発生する、それがケアの現場です。しかし誠意を尽くし、手順に沿ったケアを社会の側は裁判という道理で護ってくれたのです。

亡くなられた 84 歳のお年寄りに心からのご冥福をお祈りします。また介護を担当された職員にとっては事故とその後の展開は大変な心労だったと思いますが、耐えてくれました。感謝です。そしてホームは定められたリスクマネジメントを発動し全面的に対決しこの結果につなげたのです。私たちのスタンスは現場を護るという意味で安易な和解には応じないというものでした。事故は不幸なことでしたが最後までご自分の好きなお寿司を食された 84 歳のお年寄りの人生の最後は護られたと信じています。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

毎度のことながら年が明けると日の過ぎ方が早い。新しい手帳に 2 月の予定を書き写していると「あれ、節分が 2 日?になっている」生まれてこの方豆まきは 3 日、春分が翌 4 日と決まっている。「オリンピックの関係?そんな馬鹿な!」調べると、節分(そもそも節分は年に四回ある)は、1 年を区分する 24 節気の一つで、閏年の前後ですれることがあるそうだ。昨年の閏年の影響で、今年は例年より 1 日早い春分と節分になると説明がある。なんでも 1897 年以来 124 年ぶりのことのように。人類がどんなに正確な時計を作っても、所詮自然の周期をただ分割しているだけで、どこかで無理くり辻褄を合わせることになる。

今年が、124 年に一度の節分なら、久しぶりに豆まきをして、患方巻を頬張って鬼と疫病に退散してもらおう!!

高齢事業本部長 旭 博之

事業本部情報

☒ 児 童 事 業 本 部 ☒

寒い日が続いていますが今、大地の家に毎日のように一輪車の練習をしているひとりの幼児さんがいます。頭にヘルメット、肘とひざにプロテクターでバッチリ身を固めて、転んでも、転んでも、泣くこともなくめげずに毎日毎日練習しています。まだ乗れるようになったとは言い難いですが、少しずつ上手になっていることは見ていてよく分かります。

失敗しても周りの目を気にせずに、一切の迷いもなくひたすら練習しており、一輪車にまたがっているその表情はいつも輝いています。結果や評価は二の次で、一輪車が好きということ、一輪車に乗れるようになることの喜びだけで毎日練習しているのだと思います。「努力」や「頑張り」などは意識もしていないかもしれません。「好きという思い」だけがそうさせているのだと思います。

「好きなことに本気になれる経験」は、子どもの可能性を広げ自信を身に着けていく種となり、いつか花開くと考えます。我々は、そんな種を育むための支援を子ども達の成長や可能性を身近で感じられることの幸せをかみしめつつ、全力で行っていきたいと思っております。
(至誠大地の家 施設長 石田昌久)

☒ 保 育 事 業 本 部 ☒

姉妹のお子さん。妹は家族でキャンプに行ったことを楽しそうに話してくれます。お姉ちゃんに「どうしてキャンプの話しないの」と聞くと「なんで先生知っているの。お母さんが本当は新型コロナで行っちゃいけないのに行ったから黙っていてね。先生に言ったらキャンプいけなくなっちゃうよ」と言われたそうです。もうひと家族も一緒でしたが、その子も口を閉ざしていました。本来楽しい経験をしたら「私、〇〇したよ。行ってきたよ。」と話をしてくれる子ども達ですが、これも感染症の影響です。せっかくお友達家族と楽しい経験してきたのに表現できなくて残念な気持ちだったでしょう。お母さんもきっと子どもに話をした時、罪悪感があつたのではないのでしょうか。

幼児教育で育みたい資質・能力は、気づいたことや出来るようになったことから考えたり、工夫したり、表現する「思考力・判断力・表現力」等の基礎です。豊かな経験をして、大人に対する気遣いが身についてしまおうです。新型コロナウイルスの影響は子ども達の心にも影響しています。『疫病退散』初詣の願いがかないますように。アマビエさま出番ですよ。
(保育事業本部事務局長 長谷川育代)

☒ 高 齢 事 業 本 部 至 誠 ホ ー ム ☒

毎年至誠和光ホームの行事として、新年祝賀式は年男年女、長寿のお祝いは喜寿・米寿・白寿・百寿と、人生の節目を迎えたお年寄りから会場で一言ずつコメントをいただいております。しかし今年度はコロナ禍でマイクを回してコメントするわけにもいかず、事前にコメントしている姿を動画撮影し、それを会場で放映し紹介することにしました。当初、動画撮影はお年寄りには抵抗があるかと心配もしたのですが、撮影に応じた皆様に感想を伺うと、「髪型や服など、映りが気に入らなければ何度も撮り直しができる。」「大勢の前でマイクを持って話をするより、この方が緊張しなくていい。」「当日都合悪く欠席になってもこれなら皆に挨拶ができる。」等の評価をいただき安心しました。

コロナ禍でのお年寄り達の姿に、どのような状況下でも時代に合わせて物事が変化していくことを前向きに受け入れ、好奇心を持って新しい様式を楽しむという、長生きする秘訣の一面を見たような気がしました。
(至誠和光ホーム 園長 中川謙夫)

本部事務局だより (歴史の転換点)

すったもんだの拳句、ようやくバイデン氏が米国の新しい大統領に就任した。選挙戦の中のテレビ討論では誹謗と中傷・罵り合いに終始。選挙中には期日前投票への露骨な妨害、郵便投票へ嫌がらせ。開票においては開票所に押しかけて、根拠なく「不正があったから数え直せ」と要求し、結果が出て不正があったとして再集計を要求し、結果が不利になると裁判に訴え、裁判所が受け付けないと、とうとう暴力ではなく議論によって物事を決するという民主主義の象徴である連邦議会を襲撃するという前代未聞の事態を引き起こし、死者まで出した。

これが民主主義の盟主を名乗る一等国の振舞いならば、人権問題で中国や北朝鮮を非難できるはずがない。民主主義の価値をここまでおとしめた責任は極めて重い。米国の指導力の低下は既に始まってはいたが、これを決定づけた出来事として歴史に刻まれることだろう。

(法人事務局長 野島 忠幸)

(編集後記) 昨年末から厳しい寒波が次々と到来していますね。コロナにインフル、感染症の流行がピークとなります。この一ヶ月は無理をせず心と身体の健康を第一に過ごしましょう。(小)